

助成年度：2021 年度

[所属] 京都大学 大学院地球環境学堂

[役職] 准教授

[氏名] 浅利 美鈴

[課題]

農山村を持続可能で豊かな暮らしの教育拠点にするための実践研究

[内容]

持続可能性が危ぶまれる中山間地域ですが、コロナ禍からのグレートリセットや脱炭素社会構築への期待感とともに、改めて位置づけが見直されようとしています。そこで、農山村などの持つ機能や価値を、SDGsの17ゴールなども念頭に置きながら学際的に評価・検証すると同時に、面展開するための手段として教育に焦点を当て、多世代・多分野に渡る教育プログラムの体系化を行うことを目的として研究を推進しました。

フィールドを典型的な中山間地域である京都市右京区京北地域とし、地域の機能や価値の掘り起こしを、アンケート調査やインタビュー、ワークショップを通じて行い、豊かな自然環境や里山の暮らしに根差した文化や知恵、それを活かす人などを多く見出すことが出来ました。それらを活かす形で、地元の小中学校と連携し、持続可能性・SDGsに紐づけつつ、自分事化することを目指す教育プログラムを開発し、一定の効果を確認しました。地域資源の中でも、「茅」に着目し、茅葺屋根への利用をソフト・ハード両面から検証し、課題と可能性を明らかにしました。また、全国の中高生を社会課題解決に向けたリーダーとして育成するプログラムを開発し、里山の課題にも積極的に取り組む姿勢を確認できました。そのプログラム参加者に対して心理学的評価を行った結果、ネガティブな事象に向き合えるようになったことなどが示唆され、成長につながる一つの機会になったことが確認されました。

中山間地域は、SDGs教育資源に恵まれていることが実証されましたが、都市との連携により、それを持続させるモデルの定着には、まだ試行と時間を有すると考えられます。